

(様式2)

放射線等に関する教育実践事例

学校番号・学校名	〈小・31〉 いわき市立 高坂 小学校
<実施日>	平成 28 年 5 月 24 日 (火)
<実践教科等>	※当てはまる番号に○を付けてください。4は()に教科等を入れてください。 1 理科 ○2 学級活動 3 総合的な学習の時間 4 その他 ()
<実践内容>	<p>放射線と安全な生活</p> <p>【ねらい】 放射線被ばくについて正しい知識を身に付け、安全な生活をしようとする態度を養う。</p> <p>【主な学習内容】</p> <ul style="list-style-type: none">○児童アンケートの結果から、放射線についての疑問、放射性物質や放射線のことについて不安に思っていることについて話し合う。○学校にある線量ポストや線量計を使って、実際に測定した線量の結果を見せる。また、他の地域の線量と比べてみる。○場所によって、数値が変化することを知る。線量の高い場所と低い場所があることを理解する。○放射線被ばくの早見表と照らし合わせて、放射線の性質と身体への影響について知り、健康被害の状況について理解する。○安全な生活の仕方についてまとめる。
<成果>	<ul style="list-style-type: none">○事前にアンケートを取ったことで、「放射線に対する知識や恐怖心の個人差が大きい」という児童の実態をつかんでから授業に臨むことができた。○様々な場所の線量を比べることで、ちょっとした要因で線量は変わるということや自然界に放射線は存在するということに気付かせることができた。放射線についての恐怖心が薄れたと述べた子もいた。
<課題>	<ul style="list-style-type: none">●震災の記憶が薄れ、放射能についての知識がほとんどない子どももいる。子どもたちを取り巻く環境や状況の変化に応じて、放射線教育全体計画を見直し適切な指導ができるようにしていきたい。
資料作成担当者職 (教諭) 氏名 (柏原 紘子)	学校電話番号 (26-3508)

【資料作成上の注意】

1. 平成27年8月～平成28年7月の実践についてまとめてください。
2. 提出期限の平成28年8月1日(月)までに電子メールで送信してください。
(送信先: kakuta-k@city.iwaki.fukushima.jp)